

# 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所名	グループホーム 王喜の郷		
所在地	下関市王喜本町6-1-12		
電話番号	083-283-2834	事業所番号	3570101125
法人名	社会福祉法人 緑樹会		

訪問調査日	平成 22 年 1 月 7 日	評価確定日	平成 22 年 4 月 26 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

## 【情報提供票より】

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	11 人	常勤 5 人 非常勤 6 人 (常勤換算 7.2 人)	

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1 階建ての	~ 1 階部分

### (3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 30,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	朝食	150 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	50 円
その他の費用	月額	25,000 円		
	内訳	日常生活用品費10,000円 光熱水費15,000円		

### (4) 利用者の概要 (1月7日現在)

利用者数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
	要介護1	0	要介護4	1	
	要介護2	1	要介護5	2	
	要介護3	5	要支援2	0	
年齢	平均 87 歳	最低	80 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医科 周山病院、牛尾内科医院 歯科
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

### (優れている点)

利用者と家族、職員とのより良い関係作りのため家族会を年4回開催され、利用者の生活状況「生活リズムパターンシート」を開示し、ホームでの介護をオープンにしておられ、利用者を職員と家族で共に支えていくという熱意がうかがえます。地域との交流で「レトロコンサート」を開催され、20人余の地域の人の参加があり、また利用者の家庭に他の利用者が訪問されるなど、これまでの交流から利用者は外来者と当たり前のように対応できるようになっておられます。

### (特徴的な取組等)

職員を育てるために、現在は法人合同の研修を年4回実施されていますが、職員の研修希望を聞き、今後事業所独自の研修計画を反映させようと前向きに取り組んでおられます。また、6名の資格習得(介護福祉士)希望者を応援しておられます。

## 【重点項目への取組状況】

### (前回の評価結果に対するその後の取組状況)

理念を検討され「住み慣れた町で」を加えられ、運営推進会議は4回実施し2ヶ月に1回の定期開催を検討されています。自己評価を全員で検討し「どんな事業所を作り上げていくか」を考える良い機会とされています。ヒヤリはっとの記入を進められ、救急救命訓練は年2回実施しておられます。

### (今回の自己評価の取組状況)

職員会議を開催し、全員で検討して意見を出し合いまとめておられます。職員各自が日常の介護を見直す良い機会とされています。

### (運営推進会議の取組状況)

年4回開催し、今後は定期的に開催することも検討しておられます。メンバーに派出所の警察官も加わり、地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員、婦人会長、第三者委員(2人)、利用者、家族で事業計画、地域との関わりの強化、家族との連携強化、交通安全教室等について意見交換されています。

### (家族との連携状況)

毎月ホーム便りに、個別のコメントと金銭出納の写しを入れて送付したり、来訪時に手渡ししておられます。年4回の家族会では、個人の記録「生活リズムパターンシート」を見てもらい、利用者を家族と共に支える姿勢を伝えておられます。また、面会時や電話で情報を伝えたり要望を聞いて、家族との繋がりを大切にしておられます。

### (地域との連携状況)

地域の行事、文化祭や夏祭り、運動会などに家族と共に参加しておられます。また月1回ホームで「レトロコンサート」を開催され、チラシを広報と一緒に回覧して、地域の人が20人余参加され、懐かしい歌を聴きながら茶話会で楽しい一時を過ごしておられます。また、誕生会に婦人会や保育園児を招待するなど地域との交流に努めておられます。

## 評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	<b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	地域に密着した介護サービスのあり方を模索することの重要性から、理念を全員で検討し「ここにありますが、いつも安心、住み慣れた町での楽しい生活」と作り変えている。	
2 (2)	<b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を事務室に掲示して職員は各自で暗唱し、特に地域との交流にも力を入れ、理念の実践に向けて取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	<b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の夏祭りや文化祭、運動会等に家族とともに参加している。ホームで月1回の「レトロコンサート」を実施し地域の人の参加(20人)を得たり、誕生会に婦人会や保育園児を招待するなど地域交流に努めている。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義を理解し全員で検討し、期待される介護や職員が協働してどのような事業所を作り上げていくかを考える機会となっている。また外部評価を活かし具体的な改善に取り組んでいる。	
5 (10)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	年4回実施し今後は定期的を開催することも検討している。メンバーに警察署員も加わり地域の多方面から参加してもらい、事業計画や外部評価の報告をしたり、地域との関わりの強化、家族との連携強化、交通安全教室のことなどを話し合い、意見も活発に出てサービスに活かしている。	
6 (11)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	介護保険課などと困難な事例やサービスのことなど、連携を密にして市と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月ホーム便りに個別のコメントや金銭出納の写しをいれて送付したり、家族の面会時に渡している。家族会を年4回開催し、情報や意見を交換したり、個人の記録「生活リズムパターンシート」を家族の要望で開示し、職員は利用者を家族と共に支える姿勢を伝えている。面会時や電話でも家族と情報を交換している。	
8 (18)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	年4回の家族会で意見や苦情、相談を聞いている。相談苦情の窓口や職員、外部機関、第三者委員(2人)を明示し、処理手続きを明確にしている。	
9 (20)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	日中は3～4人体制で、行事や状況の変化に応じ話し合いで勤務調整をしている。緊急の場合は休日出勤や管理者が代替して柔軟に対応している。	
10 (21)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動は最小限にしている。離職防止のために、昼食後の休憩や悩み相談など、働きやすい職場作りに努力している。離職の場合は夜勤2回、日勤数回の重複勤務をし、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人での合同研修を年4回実施し、職員が参加しやすい勤務体制をとっている。また、事業所独自で職員の研修希望を取り、今後の研修計画に活かす取り組みを始めている。外部研修は参加した職員が会議で全員に復命伝達している。新人については、職員の配置を多くして働きながらのトレーニングをしている。介護福祉士の資格取得希望が6名あり事業所としても応援している。	
12 (24)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会に加入し、ブロックの勉強会に参加し情報や意見交換等を通してサービスの質の向上を図る努力をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p><b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入居前に利用者と家族の見学を勧め、職員や利用者と一緒にお茶を飲んだり、病院やデイサービスからの入居は、面接に行くなど徐々に馴染めるように家族と話し合い工夫している。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p><b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>利用者は、お茶の先生や料理、野菜作りなど夫々の特技を持っており先輩として教えられることも多く、お互いに支え合う関係を築いている。訪問時、いろんな話題の中で利用者の笑顔に触れることが出来た。</p>	
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p><b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日々の会話や趣味の作品作り、調理の際の表情や動作から思いや意向を把握し「生活リズムパターンシート」に書きとめ、情報を共有して介護に活かしている。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p><b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>家族会議や来訪時に意見や希望を聞き、月1回のカンファレンスで検討し、夫々の意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p><b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>見直しの期間は原則6ヶ月で、2ヵ月ごとに主治医との担当者会議を開催し、変化があれば随時本人や家族と話し合い、新たな計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p><b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>かかりつけ医の受診の送迎や入院中の見舞い、故郷訪問などの特別外出を柔軟に支援している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人や家族の希望に添ってかかりつけ医を決め、受診方法、情報の伝え方について取り決めている。かかりつけ医や家族と連携を取り適切な医療が受けられるよう支援している。	
20 (53)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	方向性として常時医療が必要になった場合と入院を繰り返す場合はケアできないとしているが、家族の希望で主治医、家族、職員で話し合い協力して看取っている。現在家族のアンケートをとり終末期について検討、勉強中である。今までに2人の看取りの経験がある。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	言葉かけや対応について職員会議で検討したり、管理者や職員相互で注意しあっている。記録類は事務室のロッカーに保管している。	
22 (59)	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	およその1日の流れは決まっているが、押しつけることなく本人のペースで好きなように過ごしている。ソファでテレビを見る人テーブルで語り合う人、居室で昼寝など見守りの中で自由に過ごす様子が伺えた。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	昼夕は配食で、週1回日曜日の昼食を皆で手作りし、献立には希望も入れ調理して、盛り付けから、後片付けまで一緒にして食事を楽しみにしている。	
24 (64)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	入浴は毎日14時～16時で、希望にあわせてゆったりと入っている。重度の利用者は午前中に、また入浴を嫌がる場合には清拭やシャワー浴も行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	夫々の力量に応じ、食事の後片付け、洗濯物干しや洗濯物たたみ、掃除などの活躍できる場面づくりや、ぬりえや折り紙、習字、散歩など楽しみごとの場面づくりの支援をしている。また、家族の協力を得て、家庭訪問をしたり、月1回の「昭和レトロコンサート」は地域の人と共に楽しみになっている。	
26 (68)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	周辺の散歩、四季の花見、買い物、ウッドデッキでの外気浴など出来るだけ戸外に出かけられるよう支援している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	職員会議で話し合い、拘束はしていない。スピーチロックは、職員同士で注意しあっている。	
28 (75)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	利用者のリスクを把握し、見守りをしており日中は施錠していない。玄関にドアホーンをつけ外出を察知したら、一緒に出かけることもある。	
29 (78)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止のマニュアルを作成し、事故報告書、ヒヤリはつとを整備記入しているが、再発防止のための全員での検討がされていない。	・事故やヒヤリはつとの再発防止のための検討
30 (79)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救命救急(AEDを含む)の講習は年2回法人内で受けているが初期対応や応急手当の定期的訓練は行っていない。	・初期対応や応急手当の定期的訓練の実施
31 (81)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	法人内合同で年2回避難訓練(夜間想定も)を実施しているが、地域の協力は得られていない。	・地域の協力を得るための働きかけの検討

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬は看護師が管理し、健康管理ファイルに整理され、職員は目的や副作用を理解し、服薬は手渡しして確認している。変化があれば医師にフィードバックしている。	
33 (86)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	口腔ケアは朝夕2回声かけや見守り、介助で行っている。ハブラシは毎回熱湯消毒し、義歯は清掃、保管している。	
34 (87)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量は記録し、水分量は1日を通じて把握して、特に少ない人のみジュースや清涼飲料水を補充している。栄養バランスやカロリーは法人の栄養士がチェックしている。	
35 (88)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	法人の「感染症会議」に看護師が出席し、情報や流行時の対応、予防などを全員に伝えている。マニュアルに添ってうがい、手洗いの励行、トイレや手すりの消毒を毎朝実施している。インフルエンザの予防接種は全員済みである。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
36 (91)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	食堂兼居間、廊下は広々として明るく床暖房があり、温度、湿度など適切に設定され、対面キッチンの匂いや音が快く聞こえてくる。テーブルやソファーでくつろぐ利用者の姿には、穏やかな生活が感じられた。浴室やトイレも広く車椅子にも対応できるよう工夫している。外には広いウッドデッキがあり、暖かい日には外気浴、日光浴も出来る。	
37 (93)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人と家族で相談しながら、使い慣れた物を持ち込む人、また備え付けだけで済ませる人、夫々で写真や作品などを飾り、自分なりの心地よさを工夫している。	

# 自己評価書

## 【ホームの概要】

事業所名	グループホーム王喜の郷
所在地	山口県下関市王喜本町6-1-12
電話番号	083-283-2834
開設年月日	平成14年4月1日

## 【実施ユニットの概要】 (12月1日現在)

ユニットの名称			
ユニットの定員	9名		
ユニットの利用者数	9名	男性 0名	女性 9名
	要介護1		要介護4 1
	要介護2	1	要介護5 2
	要介護3	5	要支援2
年齢構成	平均 87歳	最低 80歳	最高 95歳

## 【自己評価の実施体制】

実施方法	職員会議開催。昨年度の自己評価票+今回の評価票を職員全員で検討。グループホーム食堂にて午後1時30分より午後3時30分まで。
評価確定日	平成21年12月10日

## 【サービスの特徴】

入居者が自分の居場所を王喜の郷に見つけてくださること。残された人生を安心して送っていただけること。職員が念頭に置いていることです。

1. 余裕のある職員の配置に気をつけています。日中の活動時間帯は3名～4名：認知症の介護は職員にとってもストレスを感じる事の多い職場です。職員が少ないと、作業業務に追われ入居者の認知症としての生活パターンにあわせることが困難です。

2. 職員、入居者皆で外来者を受け入れます：グループホームの生活者は入居者です。月に1回のレクコンサート、3ヶ月に1回の家族会、運営推進会議には来訪者が多いです。会議には同じ場所で参加していただきます。

3. 利用者、利用者のご家族、職員と、三者のかかわりを大切にさせていただいています。利用者各自で家族関係が異なります。利用者の現状を知っていただくこと、認知症の本人を受け入れていただく事、グループホーム事業(バスハイク、本人の誕生会)へ参加していただく事。は常々お願いしています。

# 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取 組んでい きたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念の共有</b>			
1 (1)	○ <b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		「ここにありますが、いつも安心、住み慣れた町での楽しい生活。」昨年度地域での生活という理念も入れてという助言から「住み慣れた町での」を入れようと話しあいました。
2 (2)	○ <b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		事務室に掲示。簡単な言葉で暗記。
3	○ <b>運営理念の明示</b> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		明確にしています。「あつてよかった、王喜の郷」と言われるように。が理念です。
4	○ <b>運営者や管理者の取り組み</b> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		職員の目線も踏まえて共に取り組んでいます。
5	○ <b>家族や地域への理念の浸透</b> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。		認知症の方の「安心できる自分の居場所作り」に常に気をつけて業務を行っています。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
6	○ <b>隣近所とのつきあい</b> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。		法人関係者以外の近隣とはできていないし接する機会もない。
7 (3)	○ <b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		月に1回のレトロコンサートでの交流。地元の保育園児、婦人会が誕生会へ参加。
8	○ <b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		地域の認知症を抱える家族への対応を同一法人内の小規模多機能型居宅介護事業所と考える。運営推進会議において民生委員、自治会関係者、近隣者への話し合いで理解していただいている。
			小規模多機能型居宅介護事業所と共同で認知症の方の住みやすい地域作りを実行していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
9	<b>○評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を職員全員で行う事。家族会、運営推進会議で報告する事。をとおしてどのような介護が期待されているか、職員が共同してどのようなグループホームを作り上げていくかを考えるよい機会になっている。	
10 (5)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	平成21年度は会議のメンバーの方もいろいろな方の参加を募っている。それぞれの職種の方から多方面の意見もいただける。助言を実行している事も多い。	
11 (6)	<b>○市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議に地域包括支援センターの担当者が必ず出席して下さる。他のサービスのことや、困難事例などの相談も行っている。	
12	<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	入所者において具体的に制度利用のケースもある。管理者はともかく職員においては具体化したときでないと理解が難しいと思われる。	
13	<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待のテキスト、DVDの交付を受けているので、具体的に時間をさけて職員皆で学習する機会をもつ予定である。	
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
14	<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には契約書及び重要事項説明書をもとに具体的に説明を行う。家族会にて退去時のことについては話し合う機会を設けた。解約については家族の不安が大きいので時間をかけて対応するようにしている。	
15	<b>○運営に関する利用者意見の反映</b> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	設問の意図が不明。家族の訪問をできる限り多くしていただくことはお願いしている。	
16 (7)	<b>○家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	「ホーム便り」を月に1回家族に届ける。3ヶ月に1度の家族会では個人個人の毎日の記録である生活リズムパターンシートを読んでいただく。また特変があった場合には職員が家族に必ず電話連絡を行う。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	<b>○情報開示要求への対応</b> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	利用者、家族から情報の開示要求があれば常に応じる。但し家族等においては利用者の個人情報でもあるので範囲を限定させていただく。		
18 (8)	<b>○運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	苦情窓口を設置している。3ヶ月に1度法人全体の事業所合同にて第三者委員をいれて苦情会議を開催している。苦情解決シートによるので本人、家族にその結果が必ず還る。		
19	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1回の職員会議において意見がでる。物的環境については修理等のシートの提出により整えている。その他では主任から管理者へという意見の吸い上げで対応している。		
20 (9)	<b>○柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	日中は3～4名の職員で勤務予定を組んでいる。夜間においては管理者、準看護師へは常時連絡が可能である。		
21 (10)	<b>○職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	平成14年開所以来の4名の常勤職員が勤務しており、長期に勤務できるよう職員同士が互いに譲り合ったり配慮したりして気持ちのよい職場作りを行っている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
22 (11)	<b>○職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人全体での内部研修の機会を3か月に1回行っている。グループホームの職員もそのメンバーになって運営を行っている。職員が内部研修に参加しやすい勤務体制を作っている。		
23	<b>○職員配置への取り組み</b> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	職員の年齢層は20代から70代までそれぞれのジェネレーションで職員がいる。途中入社職員が多く他職種の経験者も多い。		
24 (12)	<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会に加入している。毎回ではないが勉強会にも参加している。新人に対しては職員の配置を多くして仕事をしながら教えるように組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p><b>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</b>            運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		
26	<p><b>○向上心を持って働き続けるための取り組み</b>            運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>		
27	<p><b>○職員の業務に対する適切な評価</b>            運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。</p>		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
28	<p><b>○初期に築く本人との信頼関係</b>            相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>		
29	<p><b>○初期に築く家族との信頼関係</b>            相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>		
30	<p><b>○初期対応の見極めと支援</b>            相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>		
31 (13)	<p><b>○馴染みながらのサービス利用</b>            本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
32 (14)	<p><b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b>            職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	職員は本人の介護を家族と一緒に支えていると理解している。家族との結びつきがないと職員の介護も十分にできない。		
34	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	入居の時に本人の入居までの生活歴や嗜好等個人的なことを教えていただく。本人の子供ではわからないことが多い。介護する者が時間をかけて家族とも仲良くなる。		
35	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族や親しい方、また宗教を信心された場合には訪問があります。ドライブなどで個人、個人の家などにお連れしたりします。ご家族に協力していただき入居者皆で訪問することもしています。		
36	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	集団生活ですから職員が全体を見て具体的には食卓での席の配置や入浴の順序など常に配慮しています。生活においても個人個人での人間関係の調整は難しいので常に職員が配慮しています。		
37	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約の終了後、1ヶ月は希望されれば部屋を確保するとしています。1ヶ月と紋きりにできないので、ほぼ1ヶ月としていますが長期化する場合があります。経営上では大変困ります。9人の入居者中2名になる場合もあります。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
38 (15)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意向に沿うように配慮しています。集団生活から来る制約等もあり職員は互いに話し合いながら実践しています。		
39	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族から聞いたり、本人の話から推察したりしますが、あくまで推察です。申し訳ありませんが私どものグループホームの生活の流れに沿っていただいております。但し職員は本人の生活、考え方を尊重し否定しない。と考えて介護しています。		
40	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	同上		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
41 (16)	○ <b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族と職員はよい関係を作る事を様々な方法で心がけている。家族の意向・職員間の意見の交換をまとめることによって介護計画を作成している。	
42 (17)	○ <b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護の変更については職員間での連絡を密に取るようにしている。	
43	○ <b>個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録は職員全てが目を通し、記入した家族にも目を通してもらっている。	
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
44 (18)	○ <b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	事業所の多機能性とは何かよくわからないが、法人の事業全体からでき得ることを考えている。また家族の状況の変化には相談に乗ってできる事はおこなっている。	
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
45	○ <b>地域資源との協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	意味不明。運営推進会議のメンバーにはこれらの方々になっていただいております、会議の時にはグループホームメンバーと一緒にいる。	
46	○ <b>事業所の地域への開放</b> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	食堂を音楽のコンサート(毎月1回1時間30分程度)会場として開放している。家族の訪問や見学などは常時受け入れている。	
47	○ <b>他のサービスの活用支援</b> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	意味不明。自分の家での居宅サービスに復帰するための準備でしょうか？	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り 組んでいき たい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<p><b>○地域包括支援センターとの協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		
49 (19)	<p><b>○かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>		
50	<p><b>○認知症の専門医等の受診支援</b> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>		
51	<p><b>○看護職との協働</b> 利用者をよく知る看護職員（母体施設の看護師等）あるいは地域の看護職（かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等）と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		
52	<p><b>○早期退院に向けた医療機関との協働</b> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>		
53 (20)	<p><b>○重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>		
54	<p><b>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</b> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>		
55	<p><b>○住み替え時の協働によるダメージの防止</b> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
56 (21)	○ <b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	自分自身ではわからない場合が多いので職員が互いに注意したり、管理者が注意したりする場合もあります。職員会議で検討したりします。	
57	○ <b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人の理解力を考えながら言葉かけは行います。本人は納得した事しかされませんので見守りをしっかり行います。	
58	○ <b>“できる力”を大切にされた家事への支援</b> 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	家事は大変手軽なできる事のアイテムですが、家事をされてこなかった方もあり、また嫌いな方もあります。男性の場合家事はされない方が殆どでした。そういった方への支援のほうの問題だと思います。	
59 (22)	○ <b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	自分が希望しなくても行事や都合があったように、社会での生活は決まりごと(予定)や行事がつきものです。死ぬまでそのような煩雑なできごとと折り合いをつけながら暮らしていくのになぜ認知症だからパスするのですか？	
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
60	○ <b>身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	かかりつけの理容・美容院をもたれている方はご家族に連れて行っていただくようにしています。現在は2ヶ月に1度訪問美容にお願いしています。	
61 (23)	○ <b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	週に1回昼食を一緒に作っています。職員のたてた献立ですが作業を一緒にし、出来上がる過程があるからか喜んで食べられます。盛付・片付けは入居者にさせていただいています。	
62	○ <b>本人の嗜好の支援</b> 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	飲み物、おやつについては皆同じ物を一緒にとっていただいています。集団生活においては各人の希望には沿いかねる場合が殆どです。特に理解力が低下されている場合においては不平・不満の素となります。質問の意図が不明。	
63	○ <b>気持ちのよい排泄の支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄のチェック、排泄の誘導を一人一人について細かく行っています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	<p><b>〇入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>	毎日入浴していただいています。時間は職員の都合で決めています。入浴拒否が多いので問題はそれです。		
65	<p><b>〇安眠休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。</p>	睡眠薬の服薬はゼロです。昼夜逆転がおこる場合もありますが本人の活動に任せます。しかし寝る時間、起きる時間にはめりはりをつけます。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
66 (25)	<p><b>〇役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>	現状の9名のうち半数くらいは「仕事」が支援をうけてできませんが、マイペースで安全性の見守りだけをおこなっている方も半数です。この割合はいつもあります。		
67	<p><b>〇お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	質問の意図が不明。お金は所持していただいていません。お金が大事ということは染み付いていますので隠したりカバンに入れて常に(便所へも)持ち運ばれています。自分のお金、他人のお金の区別ができなくなり争いの元にもなります。		
68 (26)	<p><b>〇日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>	一人一人の希望には沿いかねますが散歩やドライブには天気がよく職員が多い日には行きます。		
69	<p><b>〇普段行けない場所への外出支援</b> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>	家族に理解していただき職員や利用者皆で利用者の実家にお邪魔させていただくことがあります。常に利用者の訪問を受け入れてくださるところを探しており、お願いしています。		
70	<p><b>〇電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	家族と話ができる人、家族との話を希望される方は家族に話して定期的に電話をしていただいていたいました。		
71	<p><b>〇家族や馴染みの人の訪問支援</b> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	訪問の制限は設けていません。訪問され希望されれば各人の個室で過ごしていただいています。ご家族によっては入居者の方々と一緒に希望される方もあります。		
72	<p><b>〇家族の付き添いへの支援</b> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。</p>	予備室もありますが、家族が宿泊を希望される場合には常に受け入れています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	○家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	ドライブとして近くに車で出かけます。簡単な昼食をもって戸外で食べたり家族の家で食べさせていただいたりします。そのときには事前にご家族全部に連絡を取ります。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
74 (27)	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束については職員会議においても話し合い、どうしても拘束になる場合には家族にってもらう(点滴時に暴れる)か同意をもらって(夜間つなぎ服の着用-弄便)いました。		
75 (28)	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間以外には鍵はかけていません。		
76	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に所在、様子は把握している。用便中監視する場合もある。プライバシーには触れるが何を守るかの法益の問題だと考える。		
77	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	「注意の必要な物品」がどの範囲か不明だが口にしたり持ったりして危険なものは一律に鍵がかかり目に触れないところに納すようにしている。一人ひとりの状態も常に認識があるとは考えられない。		
78 (29)	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止に取り組んでいる。		
79 (30)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救急処置については法人全体で年間何回か行っており全ての職員が参加するようにしている。		
80	○再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	ヒヤリハットシートは常に書くようにしている。事故後が多いのでむづかしいがヒヤリで書くように注意している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	火災訓練は年2回行っている。		
82	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	介護計画の中にはいっている方も多い。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
83	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調の異変を発見した職員は看護職員へ連絡。看護職員から管理者へ。相談の上看護職員が家族へ報告。急を要する場合には同時に主治医または救急へ連絡。		
84 (32)	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	各自の薬については看護職員が整理し、他の職員もみればわかるように資料整理を行っている。フィードバックは医師には行っているが薬剤師には行っていない。		
85	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	入居者の便秘の把握、対処方法については職員が抱える大きな問題です。様々な方法で取り組んでいます。		
86 (33)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	朝、夕は必ず一人一人について口腔衛生を職員が行っています。昨年度の指導で昼食後とありましたが10時、3時のおやつもあり、検討後朝・夕に留めています。		
87 (34)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士の立てた献立でのメニューでの摂取ですが摂取が少ない方には水分の摂取、また高栄養サプリメント(ゼリー、ジュース)にて補給を行っています。		
88 (35)	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症会議を法人全体で開催しておりグループホームも参加している。それに基づいて行っている。		
89	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食器、調理器については温風乾燥機にて毎回消毒を行っている。ふきん等については日光乾燥で行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
90	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	どのように答えたらよいか理解できかねる設問。入居者や家族、相談者がほっと肩がおろせればよいと考えているのですが。	
91 (36)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	一般的な家庭生活程度には行っているのではないでしょうが。暮らしからは離れてないつもりですが。	
92	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	離れたり、曲がったりしています。職員の目が届くという制限はありますが。	
93 (37)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自分のものを持ってこられている方は少ない。日中居室で過ごされる方は少なくその方達はベットで過ごされている。	
94	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	実行している。	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	工夫しながら使っている。	
96	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	本人がとまどわず自立できているとおもうような支援をするように心がけている。	
97	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダが広く、庭もひろいので開放感がある。また活動に生かしている。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1/3くらいの	利用者の2/3くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	毎日ある たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 質問の意図不明	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1/3くらいと	家族の2/3くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1/3くらいが	職員の2/3くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1/3くらいが	家族等の2/3くらいが ほとんどできていない